

2021 年度(令和 3 年度)施設関係者評価結果公表シート

2021 年度(令和 3 年度)
学校法人 豊中キリスト教会学園
幼保連携型認定こども園 豊中愛光幼稚園

1. 教育方針

キリスト教精神に基づき教育・保育を行うこと。自由あそびと異年齢保育を通して自ら「考え、学び、創り出す」者となる教育・保育を行うこと。その中で、主体性と社会性が育まれ、また体育活動を行うことで、心身ともに調和のとれた子どもに成長するよう願う。
子どもを真ん中に置き、教育・保育をめざす。

2. 教育方針と目標を実現するための方法

1. キリスト教精神に触れ、神を愛し、人を愛し、自分を愛する心を持った子どもに育てる。
2. 遊び込むことを大切にすることで個が育ち、自らが考えて決めることに喜びを感じ、主体性と創造性をもった子どもに成長するように導く。
3. 異年齢保育を進めることで、他人(ひと)とのつながりを楽しみ、人から学ぶ心を養う。
社会性と協調性、そして責任感の芽生えを促す。
4. きめ細かく配慮された環境作りを通して、乳幼児の成長と健康・安全を守る教育・保育を推進する。

3. 事業計画

<2021 年(令和 3 年度)重点的に取り組む目標・計画>

コロナ禍での生活が続く中、どんなときにも『こどもたちを真ん中に！』を心におき、こどもたちの笑顔を絶やさないことに重点をおいた教育・保育に取り組んだ。

教職員のチーム力の向上、保護者や隣接の豊中教会との理解と協力の重要性を確認した。

以下の 5 項目を事業計画とした。

認定子ども園豊中愛光幼稚園

2021 年度事業計画

(1) 園の教育・保育の質の向上

園生活が行事優先となるのではなく、日々の経験の積み重ねが一人ひとりのこどもたちと集団の育ちにつながることを再確認する中で、キリスト教精神に基づく教育・保育感の共有を図る。またこどもたちの未来につながるために園の特徴を踏まえた上で展望を持つことと尊敬し合う人間関係の構築とチーム保育の充実に取り組む。また、公開保育の実施により、自園の教育・保育の良さを見直し、異年齢保育のさらなる充実を教職員で検討し、取り組む。

(2) 教育環境の改善と質の向上

幼児クラスの充実(備品の整備等)、園庭整備(シャトレーの砂場の排水工事等)を実施し、昨年度から引き継いだ園舎の漏水防止工事と同時に、2 階保育室洗面台の全面改修と階段場の工事により、園児が安全によりよい環境で過ごせる環境を整える。

(3)働きやすい職場環境の整備

人員確保のため就労環境の改善に努める。具体的には、実習生の受け入れ、学生への発信ツールの確保、ハローワークへの情報発信などに取り組む。また、業務内容の改善のため、教育・保育面でも積極的に ICT を活用した運営を行う。また、コロナ対策として、リモート会議などデジタル技術を取り入れた業務運営を促進する。

(4)計画性を持った子育て支援の実現

園庭開放『ひよこ』、キンダーカウンセラー、子育て相談、2 歳児親子教室『うさぎ』の4事業を計画し実施する。コロナ禍の中で保護者に必要を求められたキンダーカウンセラー事業について積極的に実施に努め、子育ての楽しさを発信する機会を創る。

(5)2021 年度(令和 3 年度)豊中愛光幼稚園の点検評価

豊中こども財団(豊中市私立幼稚園連合会)の公開保育を実施し、自園の教育・保育環境を確認し、その評価をフィードバックする。

4. 事業項目の達成度評価及び取り組み状況

評価項目	取組状況
(1) 園の教育・保育の質の向上	
1. 園行事や園生活の見直しを行い、教育・保育の充実を図る。	行事優先の園生活ではなく、こどもたちの日々の経験の積み重ねが一人ひとりの成長と集団の育ちにつながることを意識し、教育・保育活動に取り組むことができた。
2. チームで客観的視点をもってこども観察を行うように努め、異年齢保育の充実とキリスト教保育の理解に取り組む。	考えていることを発信することや対話することの大切さを各教職員が意識するように努めた。また園内研修を通じて、キリスト教保育についてや、チームで取組むための自園の教育・保育方針の共有を行い、各保育教諭の理解を深めた。
(2) 教育環境の改善と質の向上	
1. 保育教諭の人員を増やし、余裕のある教育環境の充実を図る。	保育教諭確保に努めているが、困難な状況が続いている。
2. 施設面においては、安心、安全、清潔、本物に出会える環境整備を念頭に、園庭の遊具の修理・補強等引き続き環境整備を進める。	保育室での感染拡大防止のための様々な工夫を行った。家具や教材の整備、大規模な園舎外壁工事、保育室洗面台の全面改修、階段場の工事を行った。
(3) 働きやすい職場環境の整備	
1. 職員の待遇改善や労働基準法の遵守に加え、仕事に誇りが持てるように役割を明確化し、職員相互のコミュニケーションを促進することで、働きやすい職場環境の形成を進める。	課題はあるが、園長・副園長・主幹保育教諭間でしっかり協議されている。保育教諭リーダーの働きが加わり、保育教諭間の連携が向上し、運営状況は着実に改善された。また看護師の働きに助けられることも大きかった。
(4) 計画性を持った子育て支援の実現	
1. 地域に開かれた認定こども園として、子育て相談、園庭開放や一時預かり保育の充実、講演会などの啓発活動の推進等、園全体として子育て支援の充実に取り組む。	本年も感染症拡大防止に注力し、園内環境の維持を重要視した結果、計画した事項で実行できない事業があったが、キンダーカウンセリングなど子育て支援は実施できた。

(5) 2021年度(令和3年度)豊中愛光幼稚園の施設関係者評価の実施

1. 引き続き認定こども園の役割とその在り方を確認し、こどもたちの育ちを見守る園として、保護者との相互信頼関係を保ちつつ、神と人ともに喜ばれる園作りを進める。その実績を具体的に評価し、課題を明らかにするために、施設関係者による評価や公開保育を推進する。	コロナ禍により、当初計画した公開保育で、第三者による園の長所の確認ができなかった。しかし、PTAの活動など保護者の意見を聞く機会を持つように心がけた。
--	---

5. 学校評価の具体的な目的や計画の総合的な評価結果

理 由
<ul style="list-style-type: none">・ コロナ禍により、2021年度の計画に対して、取り組みが不足している部分があった。・ 明確に認識された課題に対して、更に充実させる余地はあるので、改善の方向性を園がしっかりと堅持して、今後も計画的な運営を目指してほしい。・ 保護者(PTA)の活動の働きや隣接の豊中教会の支えの大きさを実感する年であった。今後も協力して信頼関係構築を丁寧に進めていく。

7. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
1. 教育・保育の質の向上	尊敬し合う関係性構築の中で『チームカアップ』についての学びや一人ひとりを大切にするキリスト教保育の精神と異年齢保育の充実を目指す。
2. 教育環境の改善	保育教諭等の人員確保を今後も続け、余裕をもって教育・保育が行われるように、教育・保育環境の整備に努める。施設内での不備や、不足している設備等を、引き続き改善していく。
3. 職場環境の整備	教育・保育に直接関わる時間と、事前準備や教育・保育後の記録等の整理の時間を確保する等、今後も働きやすい職場環境の整備に努める。
4. 子育て支援の充実	地域で子育てする保護者に対して、園庭開放や一時保育等により、支援の向上に努める。
5. 自己点検評価の実施	点検評価項目を整備すると共に、保護者等関係者の複数の目で評価を行い、さらに充実させていく。

8. 学校関係者評価

- (1) 0歳児～5歳児までの連続した教育・保育を進める園として、保育教諭の意識がさらに醸成されている。また、保護者が園の教育方針と内容を理解し、園に対する協力的な姿勢が窺える。
- (2) 教育・保育の充実は、保育教諭等の経験の長さや質に拠るところが大きい。新規人材の獲得と既存の保育教諭に対する研修等により、今後とも人的な充実を目指して欲しい。
- (3) 日常的な保護者とのコミュニケーションを大切にしている。
保護者会開催が難しい中、ドキュメンテーション等の工夫により、園の状況や園児の様子等を報告していた。今後も保護者が安心して子どもを園に送り出せるように、情報の共有を進めて欲しい。
- (4) 保育教諭が楽しく働ける職場環境を整え、いつでも笑顔で教育・保育ができるような環境作りに引き続き心がけてほしい。
- (5) 評価されるべき事項
こどもの『今』の育ちを大切にすることが未来へつながるように進めている。
その中で、今後も以下の2つは継続していけるように努めて欲しい。
 1. 遊び込むことを大切にされた保育の中で、個が育ち、自由に自らが考えて決めることに喜びを感じる子どもに成長している。
 2. 異年齢保育から、人とのつながりを楽しみ、社会性と協調性、そして責任感が育まれていることが感じられる。

9. 財務状況

2022年4月24日、公認会計士より適正に運営されていると認められた。